

CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v4.02)

| 1-1 建物概要 | | 1-2 外観 | |
|----------|--------------------|--------|----------------|
| 建物名称 | (仮称)ワコーレ芦屋宮塚町マンション | 階数 | 地上5階 |
| 建設地 | 兵庫県芦屋市宮塚町125番 | 構造 | RC造 |
| 用途地域 | 第1種中高層専用地域、法22条区域 | 平均居住人員 | 80人 |
| 地域区分 | 6地域 | 年間使用時間 | 8,760時間/年(想定値) |
| 建物用途 | 集合住宅 | 評価の段階 | 実施設計段階評価 |
| 竣工年 | 2025/2/29 予定 | 評価の実施日 | 2024年2月26日 |
| 敷地面積 | 1,003㎡ | 作成者 | 伊藤 路人 |
| 建築面積 | 563㎡ | 確認日 | |
| 延床面積 | 2,444㎡ | 確認者 | |



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.9

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO2(温暖化影響チャート)

標準計算

30%: ★★★★★ 60%: ★★★★★ 80%: ★★★★★ 100%: ☆☆ 100%超: ☆

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO2排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.5

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.8

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.4

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.1

LR のスコア = 3.6

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.3

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.0

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.4

| 3 設計上の配慮事項 | | |
|---|--|--|
| 総合 | | その他 |
| 町のシンボルである市営宮塚住宅の外壁や質感を踏襲し柔らかい色のタイルを採用、かつ街並みと調和した開放調のデザイン、本物件のコンセプト「樺木と共に永く生きる」を結び合わせて新たな価値と町のにぎわいを創出しました。 | | 本計画地は歩道に面している為、歩道側に持ち出し協力ゴミ置場を設置しております。 |
| Q1 室内環境 | Q2 サービス性能 | Q3 室外環境(敷地内) |
| 遮音・断熱性能に配慮した。住戸部分の全てのサッシは遮音性のT-2、断熱性能H-2・4とした。 | 住戸から駐輪場・駐車場への行き来をスムーズに出来る動線とした。また、EV充電機設置・来客用駐車場等を敷地内に設けている。 | 建物の北側エントランス周辺は、歩行者からの視認性が高いことを意識しつつ、道路沿いには植栽等の緑を配置し、隣地との境界に設ける塀や柵などの配置・種類について配慮するとともに、エントランス部分を構成する要素を一体的な景観としてデザインすることにより、表情ゆたかで潤いある通り景観の形成に寄与するような計画としました。 |
| LR1 エネルギー | LR2 資源・マテリアル | LR3 敷地外環境 |
| 照明計画等の設備システムの高効率化に配慮した。 | 有害物質を含まない材料など、低環境負荷を利用した。また、躯体と仕上げ材、内装材と設備を容易に分別可能とした。 | 敷地外環境へ悪影響を与えないために、各種基準を満たすよう配慮した。 |

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO2」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO2排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される